

平成 19 年度

# 病害虫発生予報第 5 号

平成 19 年 8 月 23 日

## 三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ <http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo>

## 目次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	11
5. 今月のトピックス	12
6. 気象のデータ	13
7. おしらせ	15

### 1. 向こう 1 か月の予報と対策

#### 1) 普通作物

イネ（普通期栽培）では、斑点米カメムシの発生量は平年並、トビイロウンカの発生量はやや少と予想されます。ツマグロヨコバイはやや多と予想されますが、防除の必要はありません。

ダイズでは、ハスモンヨトウの発生量は平年並と予想されますが、吸実性カメムシ類の発生量はやや多と予想されますので今後の発生に注意が必要です。

#### 2) 果樹

カンキツでは、黒点病の発生量は平年並、かいよう病（中晩柑）、ミカンハダニの発生量はやや少、かいよう病（温州）、チャノキイロアザミウマの発生量は少と予想されます。

果樹カメムシ類の発生量は中北部で少、南部でやや少と予想されますが、局所的に多数飛来する可能性がありますので注意してください。

#### 3) 茶

炭疽病、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、クワシロカイガラムシの発生量は平年並、カンザワハダニの発生量はやや少と予想されます。チャノホソガ第 4 世代幼虫の発生時期はやや遅、発生量は少と予想されます。

#### 4) 野菜

イチゴでは、炭疽病の発生量はやや多と予想されます。台風や夕立が多くなる時期ですので、雨が上がったらすぐに防除してください。

ネギでは、シロイチモジヨトウの発生量は平年並と予想されます。

#### 5) 花卉

ツツジ類では、褐斑病、ツツジゲンバイの発生量は少と予想されます。

## 2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8月		9月		
						下旬	下旬	中旬	下旬	
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	—	平年並	中	普通	被害量				1) 周囲の圃場で稲刈りがあれば、侵入に注意してください。
	ツマグロヨコバイ	—	やや多	大	低	成虫密度				1) 発生はやや多ですが、防除の必要はありません。
	トビイロウンカ	—	やや少	小	低	成虫密度				1) 本年セジロウンカの被害が認められた地域では、トビイロウンカも同時に発生している可能性があるので注意してください。
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	平年並	中	普通	被害量				1) フェロモントラップを設置している地区では誘殺数に注意してください。 2) 白変葉を手がかりにして、若齢幼虫期に防除します。
	吸実性カメムシ類	—	やや多	中	普通	成虫密度				1) ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ等が加害します。 2) 開花終期からさやの伸長期に防除します。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項		
			平年比	平年比		程度	平年比	8月			9月	
								下旬	中旬		下旬	中旬
カンキツ	黒点病	—	平年並	中	普通					1) 9月は後期感染の時期ですので、薬剤散布を実施して感染防止に努めます。 2) 引き続き枯れ枝等感染源の除去に努めます。 3) 前回散布後の積算降水量が200～300mmに達した所では、防除を実施してください		
	かいよう病	—	温州少 中晩柑やや少	小 小	低 普通					1) 引き続き発病葉、発病果の除去に努めます。 2) 強風雨によって感染するので防風対策を行うとともに、台風の接近が予想される場合は直前に防除します。 3) 高接樹や幼木については、ミカンハモグリガの防除も実施します。		
	ミカンハダニ	—	やや少	中	普通					1) 短期間に急増することがある時期なので、発生状況に注意してください。 2) 1葉当たりの雌成虫寄生数が0.5～1.0頭程度を目安に防除します。 3) 同一系統の薬剤の連用を避けます。		
	チャノキイロアザミウマ	—	少	小	低					1) この時期の被害発生部位は果頂部で、果実肥大が緩慢になると被害が判り難くなるため、丁寧な観察が必要です。 2) イヌマキ、サンゴジュ等の防風垣に隣接した樹で、被害が多くなる傾向があります。		
果樹共通	カメムシ類	—	中北部少 南部やや少	小 小	低 低					1) 飛来が見られない園では、防除の必要はありません。 2) スギ・ヒノキの球果が餌として不十分になると、急に園地へ多数飛来する可能性があります。自園の発生状況には十分に注意してください。		

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8月	9月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	炭疽病	—	平年並	小	普通					1) 秋芽開葉期に防除を実施します。
	カンザワハダニ	—	やや少	小	普通					1) 夏期に降雨が少なく乾燥状態が続いたので、気温の低下に伴い急激に発生することがあります。 2) 多発生すると防除が困難となるため、増加が見られたら早めに防除します。 3) 世代交代が早く薬剤に対する抵抗性を獲得しやすいため、同一系統薬剤の連用を避けます。
	チャノホソガ (第4世代幼虫)	やや遅	少	小	低					1) 幼虫の孵化直後から巻葉前までが防除適期ですが、脱皮阻害剤を使用する場合はそれより少し早めの卵期が防除適期です。
	チャノミドリヒメ ヨコバイ	—	平年並	小	普通					1) 秋芽の開葉初期に防除します。 2) 秋芽が激しく被害を受けると落葉等を助長し、樹勢低下の原因となります。
	チャノキイロアザ ミウマ	—	平年並	中	普通					1) 秋芽の開葉初期に防除します。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項		
			平年比	平年比		程度	平年比	8月			9月	
								下旬	中旬		下旬	中旬
チャ	クワシロカイガラムシ	—	平年並	小	普通			孵化幼虫密度		<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 第3世代幼虫の発生は、平年で9月下旬～10月上旬です。</li> <li>2) 第1世代と異なりだらだら発生する傾向なので、発生の多い園では孵化状況を確認して防除します。</li> <li>3) 株内に噴口を入れるなどして、枝や幹に十分薬液がかかるよう散布します。</li> </ul>		
イチゴ	炭疽病	—	やや多	中	普通	発病密度				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 降雨後は防除に努めてください。</li> <li>2) 灌水は、水滴が極力茎葉に当たらないように行います（やさしく手灌水、チューブ灌水）。</li> <li>3) 薬剤散布は、株元まで十分かかるようにし、畝やベンチの両側からも散布します。</li> </ul>		
ネギ	シロイチモジヨトウ	—	平年並	中	普通	成虫密度				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 卵塊や、卵から孵化したばかりで集団になっている幼虫を見つけたら取り除きます。</li> <li>2) 老齢になるに従って薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫のうちに防除します。</li> <li>3) 同一系統薬剤を連用すると抵抗性の発達につながるので、異なる系統薬剤をローテーション散布します。</li> </ul>		
ツツジ類	褐斑病	—	少	小	低	発病密度				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 伝播は雨とともに飛散したり、ツツジグンバイなどの害虫の体に付着したりして行われます。</li> <li>2) 防除は隅々までかかるよう丁寧に散布してください。</li> </ul>		
	ツツジグンバイ	—	少	小	低					<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 風通しが悪く高温乾燥条件が続けば盛んに繁殖するので注意してください。</li> <li>2) 放任しておくと被害がひどくなるので、毎年発生するところでは注意してください。</li> <li>3) 成虫・幼虫も葉の裏面に生息しているので、葉の裏面に薬剤がかかるよう丁寧に散布してください。</li> </ul>		

### 3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場（8月第2週）では、発生圃場率は26.2%（過去8年平均32.7%）と平年並（±）</p> <p>2) 一般圃場では、少～やや多（概して平年並）（±）</p> <p>考察：巡回調査と一般圃場の結果から、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ツマグロヨコバイ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯では、誘殺数は松阪市（4月1日～8月15日）で1頭（平年176頭）と少、伊賀市（5月1日～8月15日）で1,003頭（平年728頭）とやや多（+）</p> <p>2) 巡回調査圃場（8月第2週）では、発生圃場率は33.8%（平年28.5%）と多（+）</p> <p>3) 一般圃場では少～やや多（概してやや多）（+）</p> <p>考察：予察灯と一般圃場の結果を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	トビイロウンカ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯では、誘殺数は松阪市（4月1日～8月15日）で0頭（平年3.8頭）と少、伊賀市（5月1日～8月15日）で0頭（平年2.1頭）とやや少（-）</p> <p>2) 巡回調査圃場（8月第2週）では、発生圃場率は0%（平年0.2%）と平年並（±）</p> <p>3) 一般圃場では少～やや多（概してやや少）（-）</p> <p>考察：巡回調査圃場、予察灯ともに認められないので、予想発生量はやや少と考えます。</p>
ダイズ	ハスモンヨトウ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ（7月16日～8月15日）では、松阪市の誘殺数は414頭（平年355頭）とやや多（+）</p> <p>2) 巡回調査圃場（8月第2週）では、1a当りの葉の白変か所は0.0（平年0.2）と平年並（±）</p> <p>3) 一般圃場では無～平年並（概して平年並）（±）</p> <p>考察：巡回調査と一般圃場の調査結果を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	吸実性カメムシ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 県予察灯（松阪市：6月1日～8月15日）では、アオクサカメムシの誘殺数は1,083頭（平年96.0頭）、イチモンジカメムシの誘殺数は43頭（平年24.6頭）と多（+）</p> <p>2) 巡回調査圃場（8月第2週）では、25株当たり寄生虫数は0頭（平年0.0頭）と平年並（±）</p> <p>3) 一般圃場では無～平年並（概して平年並）（±）</p> <p>考察：予察灯の調査結果を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	黒点病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月17日発表)によると、気温は低くなく、平年並に晴れの日が多い予想(±)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概して平年並)(±)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はないので、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	かいよう病	-	温州 少 中晩柑 やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月17日発表)によると、気温は低くなく、平年並に晴れの日が多い予想(±)</p> <p>2) 県予察圃(新甘夏、8月中旬)では、発病果率32.5%(平年42.1%)とやや少(-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、春葉では温州で発病未確認、中晩柑で発病度0.63(±)、果実では温州で発病未確認、中晩柑で発病度0.7(±)(±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概して温州で少、中晩柑でやや少)(-)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はないので、予想発生量は温州で少、中晩柑でやや少と考えます。</p>
	ミカンハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月17日発表)によると、気温は低くなく(-)、平年並に晴れの日が多い(±)予想(±)</p> <p>2) 県予察圃(8月中旬)では、100葉当寄生虫数は、無防除区で10頭(平年25.7頭)と平年並、防除区で30頭(平年22.8頭)とやや多(+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、平均寄生葉率は0.2%(平年7.0%)、1葉当平均寄生虫数は0.01頭(平年0.20頭)と少(-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~やや少(概して少)(-)</p> <p>考察: 現状の発生量は少ですが、県予察圃の発生状況を勘案して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月17日発表)によると、気温は低くなく、平年並に晴れの日が多い予想(±)</p> <p>2) 県予察圃(8月中旬)では、粘着トラップへの誘殺は7.6頭(平年23.3)と少(-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、被害果率1.1%(平年3.2%)と少(-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~やや少(概して少)(-)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はないので、予想発生量は少と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹共通	カメムシ類	-	中北部 少  南部 やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町カンキツ園地内:8月1日~9日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 467頭(平年 179頭)とやや多、ツヤアオカメムシ 4頭(平年 19頭)と平年並 (+)</p> <p>2) 予察灯(畑・松阪市:4月1日~8月15日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 116頭(平年 913頭)と少、ツヤアオカメムシ 94頭(平年 180頭)とやや少 (-)</p> <p>3) フェロモントラップ(4月1日~8月16日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で 910頭(平年 2,763頭)、中間地(津市白山町二本木)で 1,054頭(平年 4,005頭)、平坦地(松阪市嬉野川北町)で 22頭(平年 945頭)と少 (-)</p> <p>4)巡回調査圃場(8月第2週)では、果樹園地への飛来は未確認(ナシ、カキ園たたき落とし数平年値 0.0頭)(±)</p> <p>5)一般圃場では、園地への飛来数は少 (-)</p> <p>考察: 中北部における発生量は少と考えられ、大きな増減の要因はないので、予想発生量は少と考えます。県南部においてはカンキツ園への飛来が当面急増するとは考えにくいので、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	炭疽病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月17日発表)によると、気温は低くなく(+)、平年並に晴れの日が多い(±)予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、1㎡当たり発病葉数 0.3(平年 1.4)とやや少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~やや多(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 一般圃場の発生量を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	カンザウハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月17日発表)によると、気温は低くなく(-)、平年並に晴れの日が多い(±)予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(8月上旬)では、寄生葉率は 6.0%(平年 5.6%)、1葉当寄生虫数は 0.23頭(平年 0.30頭)で平年並 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、平均寄生葉率は 0%(平年 1.9%)、平均寄生虫数は 0頭(平年 0.02頭)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 現状の発生量は少ですが、県予察圃の発生状況を勘案して、予想発生量はやや少と考えます。</p>



作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ ヤ	チャノホソガ (第4世代幼虫)	やや遅	少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ調査による成虫の発生は、第1世代の終息が平年よりやや遅、第2世代のピークはやや遅、第3世代のピークは不明確 (+)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(7月第6~8月第3半旬)では、第3世代成虫誘殺数は376頭(平年1,643頭)と少(-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、1m<sup>2</sup>当たりの平均巻葉数は0.3枚(平年2.2枚)と少(-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並(±)</p> <p>考察: フェロモントラップ調査の結果から第4世代の予想発生時期はやや遅、予想発生量は少と考えます。</p>
	チャノミドリヒメ ヨコバイ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃吸引粘着トラップ(7月第1半旬~8月第3半旬)では、誘殺数は37頭(平年44頭)と平年並(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、平均寄生虫数は0.4頭(平年1.1頭)とやや少(-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並(±)</p> <p>考察: 吸引トラップ調査と一般圃場での発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノキイロアザ ミウマ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月17日発表)によると、気温は低くなく、平年並に晴れの日が多い予想(±)</p> <p>2) 県予察圃吸引粘着トラップ(6月第1半旬~8月第3半旬)では、誘殺数は13,324頭(平年15,868頭)と平年並(±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、平均寄生虫数は13.7頭(平年8.1頭)と多(+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並(±)</p> <p>考察: 吸引トラップ調査と一般圃場での発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	クワシロカイガラ ムシ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場(8月第2週)では、雌成虫平均寄生株率は4.9%(平年6.1%)と平年並(±)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は平年並~やや多(概して平年並)(±)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はないので、予想発生量は平年並と考えます。</p>
イチ ゴ	炭疽病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月17日)によると、気温は低くなく、平年並に晴れる日が多い予想(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発病株率0.1%(平年0.6%)とやや少(-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~多(概してやや多)(+)</p> <p>考察: 一般圃場での発生量を重視して予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ネギ	シロイチモジヨトウ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃のフェロモントラップによる7月4半旬～8月3半旬の誘殺数は24頭(平年40.2頭)で少(-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、被害葉率が4.3%(平年1.4%)と多(+)</p> <p>3) 一般圃場での発生量は、平年並(±)</p> <p>考察: フェロモントラップによる誘殺数は少な目ですが、一般圃場での発生量を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ツツジ類	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月17日)によると、平年と同様に晴れる日が多い予想(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、新梢発病葉率0%(平年1.8%)と少(-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少(-)</p> <p>考察: 特に大きな増加要因がないので、予想発生量は少と考えます。</p>
	ツツジゲンバイ	-	少	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場(8月第2週)では、ヒラドツツジは成虫0頭、幼虫0頭(平年値:成虫0.3頭・幼虫0.2頭)、サツキは成虫0頭、幼虫0頭(平年値:成虫0.6頭・幼虫0.7頭)と少(-)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は少(-)</p> <p>考察: 今後の増加を勘案しても、予想発生量は少と考えます。</p>

## 4. 予察項目の見方

### 1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6
評価	早	やや早		平年並				やや遅		遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

			平年値 ↓			
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並	やや多	多	

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていれればよいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

### 2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

## 5. 今月のトピックス 「クワコナカイガラムシについて」

### 1) 生活史と特徴

クワコナカイガラムシは多くの果樹や樹木に寄生します。三重県では主にナシの害虫です。白い粉をまぶしたような小判型の柔らかい体をしていて、雌成虫は4mm前後になります。カイガラムシにしては珍しく成虫になっても歩き回ることができ、幼虫は葉裏の主脈付近に、成虫は剪定による切り口や果梗部などのすき間に集まります(図1)。群生すると白い綿が付いたように見えます。

三重県では年3回発生していると思われます。秋に樹皮下などに産みつけられた卵塊で越冬します。



図1 葉裏の主脈付近に寄生するクワコナカイガラムシ幼虫  
(左図2齢幼虫、右図脱皮直後3齢幼虫)

### 2) 被害の様子

群生しているところでは、すすが発生して黒くなります。暗くて狭いところが好きなので、袋かけをすると果実袋内に幼虫が入り込み、果梗部や果頂部のくぼみに寄生します(図2)。収穫してみて、すすや果皮表面の直径数mmの緑色斑が残る着色不良(図3)といった被害に気がつき、びっくりすることになります。近年、三重県内のナシ園では、年によって局所的に多発しています。



図2 果梗部に産みつけられた卵塊



図3 収穫期の果皮着色不良(緑色斑)

### 3) 防除の考え方

5月上中旬(第1世代)と7月上中旬(第2世代)の幼虫発生期には、幼虫の年齢が比較的そろっているので、防除の適期です。バンド誘殺や粗皮けずりも有効です。

### 4) 天敵の活用は?

一般的にカイガラムシ類の多発は天敵相の貧弱化によるところが大きいと思われます。防除薬剤の変遷や各種資材の変化などが、土着天敵相の変化に影響しているかもしれません。

県内でも天敵(寄生ハチ類)の寄生が確認されます。園地内の土着天敵類保護のために、多発傾向にある園地では、収穫期前後の殺虫剤の体系を見直す必要があります。周辺の環境を保全すると、土着天敵類の待避増殖場所になることがわかっています。

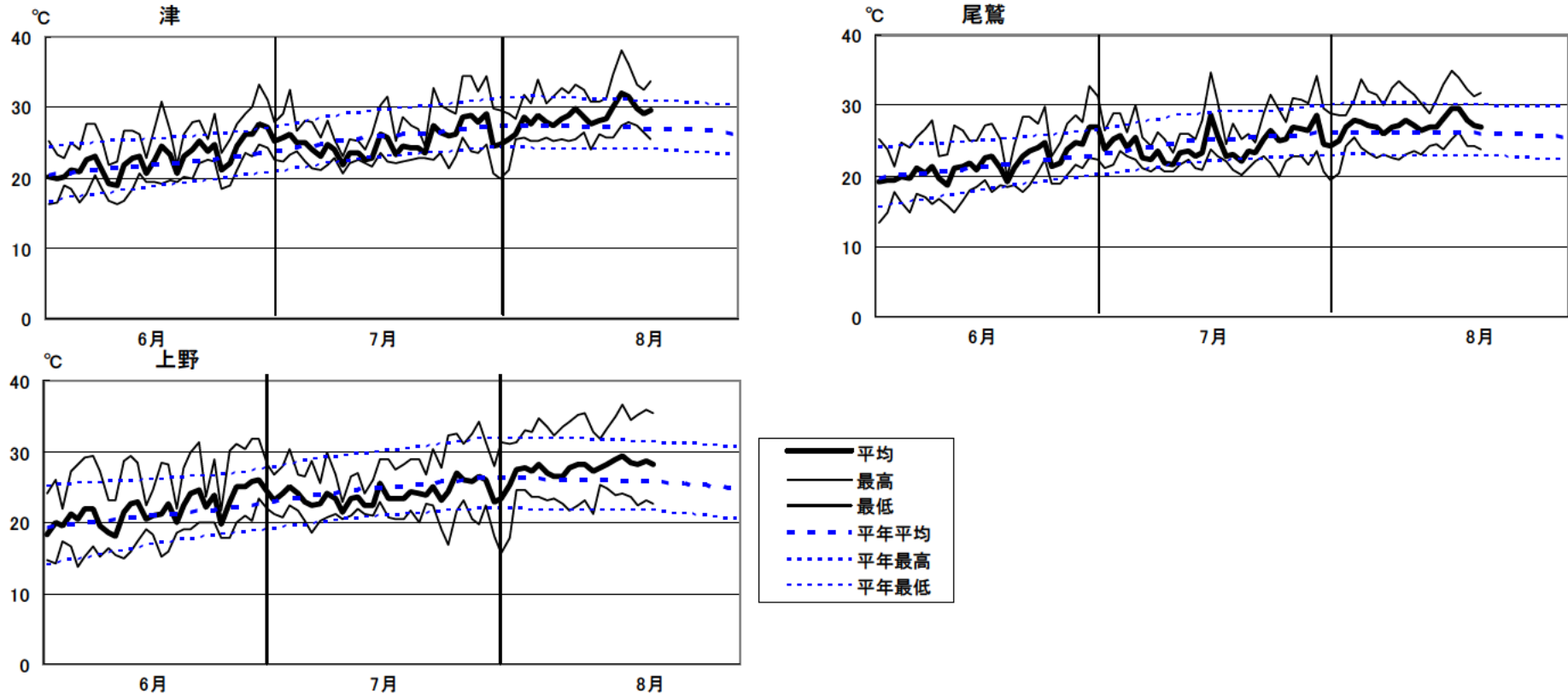
## 6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 19 年 8 月 17 日 名古屋地方気象台発表)

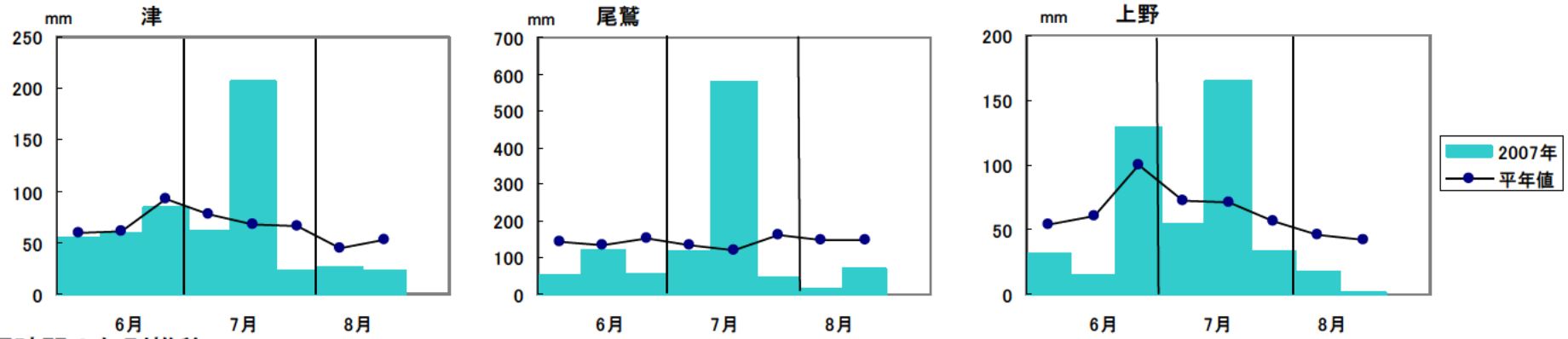
東海地方の向こう 1 か月は、高気圧に覆われて平年と同様に晴れる日が多いですが、気圧の谷や南からの湿った空気の影響を受けて曇りや雨の日がある見込みです。

1 週目 (8 月 18 日～24 日)	18 日は高気圧に覆われ晴れますが、その後は気圧の谷や南からの湿った空気の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。	晴れ日数の平年値 約 4 日
2 週目 (8 月 25 日～月 31 日)	高気圧に覆われて平年と同様に晴れる日が多いですが、気圧の谷や南からの湿った空気の影響を受ける日があるでしょう	同 約 4 日
3～4 週目 (9 月 1 日～14 日)	天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われて平年と同様に晴れる日が多いでしょう。	同 約 8 日

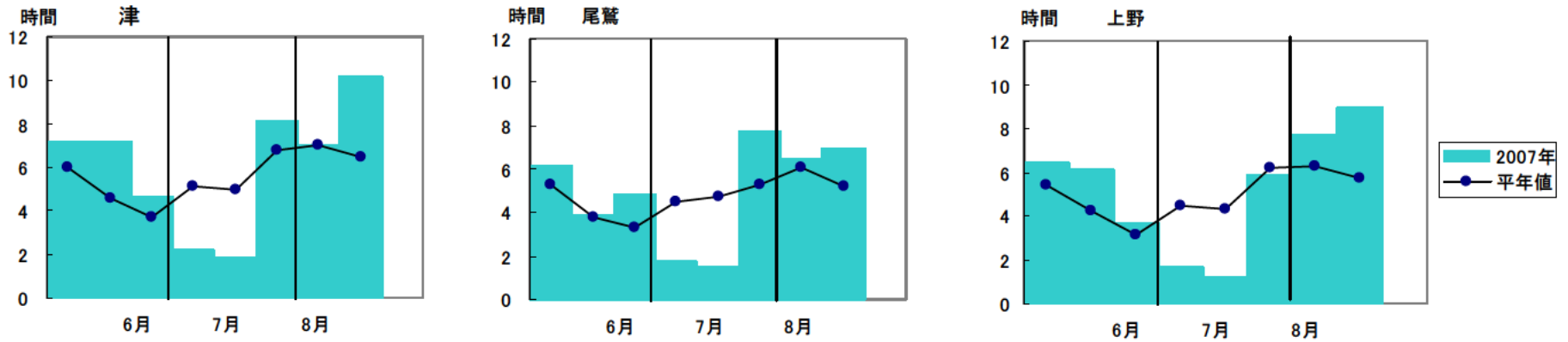
気温の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成)



降水量の旬別推移 (気象庁発表データ<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



日照時間の旬別推移 (気象庁発表データ<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



## 7. おしらせ（前回と異なる項目にはNEWの印があります）

### 1) 利用方法

この病害虫発生予報は、定期的（4～8、10、3月各月の下旬）に発表されます。この予報の他、不定期に警報、注意報、特殊報、技術情報も発表されます。

これらの資料は全部または一部をコピーして再配布しても構いませんが、必ず「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、これらの情報のほか、各種のグラフや写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/>

### 2) メール通知サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせするサービスを行っています。この通知を希望される方は、病害虫防除所ホームページの要領にしたがってお申し込みください。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/byotyumail.htm>

### 3) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。最新の農薬登録状況を確認するには、次のイン

ターネットサイトで調べるのが便利です（下記のアドレスに変更されています）。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報」

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>

### 4) 三重県病害虫防除の手引き

「三重県病害虫防除の手引き」の最新の冊子版（平成19年3月12日現在）を病害虫防除所ホームページに掲載しています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/nouyaku/tebiki/20070312/070312tebik.htm>

### 5) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の利用の便宜を図るため「平成19年度病害虫発生予報利用の手引き」を作成しました。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/yoho/h19yohotebiki.pdf>